

【 奈良学園中学校・高等学校 】 平成30年度 学校自己評価書 I 教育活動に関するもの

平成31年3月30日

項目ごとの評価（中・小項目とも）4段階評価 A：極めて達成度が高い B：概ね達成できている C：課題を残している D：課題が多く速やかな改善が必要

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善	
I 教育活動に関するもの	(1) 教育目標・教育計画	① 教育目標について	「至誠力行」の校訓の下、次の社会を担い、世界に雄飛する人材を育成すること。	教員および生徒が、教育目標に向かって日々努力を続けた。	B	建学の精神を慮りながら、本校の特色を活かした教育活動ができたか。	次年度以降も社会のリーダーとなる人材の育成に努める。	
		② 教育計画について	教育目標実現に向けた実践を具体化できるよう計画を策定し、その実行に努めること。 特に、第二期SSHの初年度の教育活動を計画に基づいて進めること。	計画的に、教職員が歩調を揃えて取り組むことができた。SSH事業については、新しい計画に基づいて第二期の初年度の取組を順調に進めることができた。	A		SSH活動を計画どおりに推進できたか。	第二期SSHとして、高校2年生を対象にした新科目「文系科学探究」、「SS科学探究I」における取組等を進めること、学習指導要領の改訂にともなう高校の教育課程の編成に着手することが次年度の課題である。
	(2) 教科指導	① 学習指導計画の立案について	6カ年を見通して、各学年および各教科において、学習指導計画を策定し、その計画に基づき授業を実施すること。	中1・中2の英語・数学の授業で20名の少人数授業を継続して実施した。また、ALTを1名増員し、高校において英語の「話す」「聞く」技能を高める授業をより充実させることができた。	A	B	各教員が学習指導計画に基づいた教育活動を実践したか。	英語の「話す」「聞く」技能を高めていくことに努める。また、中学校においては、各教科の基礎的な内容を確実に身に付けさせるための指導方法や取組の改善が必要である。同時に、上位層を伸ばすことも重要である。
		② 指導方法の工夫	学習指導方法の改善に努めること。	年2回、教科ごとに研究授業を実施した。さらに、普通教室に設置したプロジェクトを活用する授業を開始した。	B		課題意識を共有しながら、学習指導方法の改善に努めることができたか。	生徒が能動的（アクティブ）に学ぶ授業の構築をさらに進める。また、ICT機器の活用を工夫する。
	(3) 道徳（人権教育）	道徳(人権教育)について	人権感覚や規範意識を身に付けるように指導計画を作成し、人権教育活動を実施していくこと。	人権ホームルームの実施や講演会の開催、また、人権教育部による「心のプリント」を毎月配布することを通して、左記の目標の実現に努めた。また、「特別な教科 道徳」の実施に向けた研究を進めた。	B	B	左記目標の指導計画に基づいた人権教育活動を実践できたか。	次年度は、中学校での「特別な教科 道徳」の具体的な授業計画を策定し、その計画に基づいて実施する。
	(4) 特別活動等	① 生徒会活動について	自主的かつ主体的に行動できる人物となるよう、生徒会指導部を中心に、適切な指導と助言をおこなうこと。	文化祭や文化委員会行事等を生徒自らが企画・運営し、無事に終了することができた。	A	A	生徒会活動が自主性・主体性を育む活動だったか。	一層自主的、創造的に活動させたい。
		② クラブ活動について	クラブ活動を通じて、心身の健全な育成のみならず、挨拶等の礼儀や協調性を育てていくこと。	左記の目標に則った活動の他、近畿大会や全国大会に出場したクラブもあった。	A		クラブ活動を通じて、心身の健全な育成のみならず、礼儀や協調性を育むことができたか。	本校の特色である文武両道を今後も実践していきたい。
	(5) 総合的な学習の時間の指導	特別講座・「卒業論文」について	広い視野を養い、興味・関心を高めるために、学外から有識者を招聘した特別講座等を実施する。また、中3における卒業論文の指導を工夫する。	左記目標にも掲げた特別講座を実施した他、中3時に生徒一人一人が「卒業論文」を制作した。	A	A	「卒業論文」制作における指導の他、生徒の興味・関心を高める特別講座を企画・実施できたか。	第二期SSHにおける高校での課題研究につながるよう、引き続き「卒業論文」の指導を行う。
	(6) 生徒指導	① 生徒指導について	集団生活のマナーやルールを理解させ、基本的な生活習慣を確立させることで、社会の範となるべき人物の育成に努めること。	登下校指導等に全教員が協力してあたる等、左記の目標に向けた取組・指導をおこなうことができた。ただ、集団生活におけるマナーが十分身に付いていない生徒も見受けられる。	B	B	生活指導を通して、基本的な生活習慣を確立させることができたか。	特に中学校における生活習慣・学習習慣の確立に力点を置いて指導していきたい。
		② 教育相談等について	中学・高校という思春期特有の多様な悩みを持った生徒に対し、教育相談の体制を充実させるとともに、その支援を図っていくこと。	日常の教職員による相談活動の他に、スクールカウンセラーとの面談を設定することで、相談を必要とする生徒・保護者への対応に努めた。	B		教育相談の体制が十分機能しているか。	スクールカウンセラーと学年・学級担任との間でより緊密な情報交換ができるような体制づくりが課題である。
	(7) 進路指導	進路指導について	生徒の進路実現に向け、学年に応じた学力養成のための指導を実施すること。	進路講演会、各学年における補習・外部模試等を実施。さらに、中3・高Iに対し東大・京大見学会を実施した。 また、高II生に対する合宿セミナーの実施時期を早める、中学3年生を対象とした「中3学力増強プログラム」など、新たな取組を開始した。	B	B	学力養成のための取組が実施できたか。	中学校段階での基礎学力の一層の定着と進路に対する意識付けを図ることが必要である。 また、英語のスピーキング能力を高めるなど、大学入試改革に向けた取組を継続して進める。

【 奈良学園中学校・高等学校 】 平成30年度 学校自己評価書 II 学校経営に関するもの

平成31年3月30日

項目ごとの評価(中・小項目とも) 4段階評価 A:極めて達成度が高い B:概ね達成できている C:課題を残している D:課題が多く速やかな改善が必要

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善
II 学校経営に関するもの	(1) 組織運営	校内会議の運営と位置づけ	学年主任会議、校務分掌の長による校務運営会議、職員会議を定期的に開催することで、全教職員が課題意識を共有できるように努めること。	左記の会議を開催し、報告・相談・連絡により、情報や課題意識について教職員間で概ね共有することができた。	B B	教職員による情報や課題意識の共有化を図ることができたか。	課題意識をより深く共有できるようにしたい。
	(2) 研究・研修	① 校内研修	教職員の資質及びスキルを高めるため、校内研修を実施していくこと。	教務部の主導による研究授業を実施することができた。また、講師を招聘しての生徒指導に関する研修会や定期的な人権研修をおこなった。	B B	教職員の資質・スキルを高めるための校内研修を実施できたか。	生徒の指導に直接つながる研修会となるよう、その内容を今後も工夫していくことが必要である。
		② 校外の研修への参加	教職員の資質及びスキルを高めるため、校外での研修にも積極的に参加していくこと。	予備校など外部団体主催の講習会等に参加することができた。	A B	資質・スキルを高めるため、校外での研修に教職員が積極的に参加したか。	教科指導に関する研修の成果を各教科等で一層共有していくことが必要である。
	(3) 安全管理	危機管理体制について	生徒が安全で安心して過ごせる環境作りを計画し、教職員は常に安全管理の意識を持って行動すること。	保護者を対象にしたメール配信システムも導入している。また、生徒への自転車安全運転のための指導を実施した。	B B	防災の意識を持って、教育活動に従事できたか。	地震を想定した避難訓練を実施する必要がある。また、事故のないよう、登下校の自転車運転についての指導を継続する。
	(4) 保健管理	保健指導・教育相談について	生徒の、健全な心身の発達を促し、そのために必要な情報の収集及び実践をおこなうこと。	健康診断を通じた保健指導等をおこなった。また、スクールカウンセラーを交えた教育相談を実施した。	B B	保健指導等を通して、生徒の健全な心身の発達に寄与する教育活動を実践できたか。	生徒一人一人の個性的な発達を支援するため、生徒理解について、教職員の研修を一層深めていく必要がある。
	(5) 家庭・地域との連携	① 地域との連携について	地元自治会や近隣の福祉施設と連携しながら、地域とのつながりを深める活動をおこなっていくこと。	本校行事の案内、懇談会、演奏会、科学教室等を通して、地域とのつながりを深めた。また、通学路の一斉清掃をおこなった。さらに、地域の中学校の生徒指導担当者と定期的に情報交換を行い、連携を図った。	B B	地域とのつながりを深めながら、近隣住民との理解を深めることができたか。	近隣住民の学校に対する信頼を深めるためには、通学マナーなど、日常の生徒の行動に対する指導も大切である。
		② 保護者・育友会との連携について	保護者との懇談や面談を通じて、保護者と学校との共通理解を図る。	1学期に2回、2学期に1回、学年ごとに保護者会を持ち、学校と保護者の相互理解を図った。また、育友会の役員の方と学校管理職との懇談の場も設けている。	B B	保護者と学校との共通理解を図る場を設けることができているか。	育友会行事等を通して、保護者に本校の教育をより理解していただくとともに教職員と育友会との連携を深めたい。
	(6) 施設・設備	教育環境の整備について	全教職員で連携を取りながら、学習環境を整備していくこと。また、既存の教育施設の補修にも力を注ぐこと。	新校舎が建設されて9年目となり、適宜補修を行うことができている。また、IT教育設備推進事業に3カ年計画で着手し、中学1年、高校1年の普通教室にプロジェクトを設置した。	A A	教育環境の整備を進めることができたか。	次年度も、IT教育設備推進事業を計画に則って進め、教育環境の整備に努める。
	(7) 情報管理・提供	① 個人情報の管理・保護について	学校法人奈良学園個人情報保護基本方針に則り、個人情報の管理について周知徹底をおこなうこと。	成績管理等の個人情報の管理について、遺漏のない形で徹底できた。	A A	学校法人奈良学園個人情報保護基本方針に則った個人情報の管理ができたか。	個人情報保護については、その徹底が求められており、今後も厳重に管理する。
		② 情報の提供について	HP等を通して、本校の教育活動に関する情報や資料の公開・提供に努めること。	HP上で、学校行事等の様子を伝え、情報提供に努めた。	A A	HP等を通して、本校の教育活動に関する情報や資料の公開・提供をおこなうことができたか。	学校主催の見学会、入試説明会等の案内については、時期を早めてHPにアップするようにしたい。
	(8) 入試及び広報活動	① 広報活動について	本校の特徴やよさを保護者や子どもたちに知っていただけるよう、広報活動を行うこと。	在校生に協力してもらうなど、学校見学会や説明会の内容を工夫することで、本校のよさをより知っていただくことができた。また、中学入試の出願者については、昨年度より約90名増加した。	B B	本校の特徴やよさを、保護者や子どもたちに知っていただくことができたか。応募状況はどうであったか。	本校の特徴やよさを知っていただくために、学校見学会・説明会、塾等での説明会におけるプレゼンテーションの方法等について工夫・改善を継続して行う。
		② 入試事務について	入試問題作成、事務作業、採点・発表作業など、入試全般にわたる作業を滞りなく実施すること。	守秘義務を徹底したうえで、厳正な入試を行った。また、Web出願を導入したことにより、志願者の便宜を図ることに加えて、入試事務もより円滑に実施することができた。	A B	入試全般にわたる作業を滞りなく実施することができたか。	今後も、守秘義務を徹底したうえで、厳正な入試を行っていく。